

## ▼共通課題の展開について

五月一五日編集委員会のと在京運営委員とともに合同委員会を開いて、共通課題の具体化について意見を交換しました。在京研究会を進めるとともに、会員諸兄からの提案を基礎に共通課題を展開させることが望ましいことはいりまでもありませんが、前回大会討論や、小池会員の第一回研究会発言にみられるように、今までのところ、検討の△焦点▽はまださほど明確になつてきておりません。大会討論の結語では、大会討論の成果を实地調査で検討し、その問題を今年度大会でもちよることとされましたが△焦点▽がなお明確でないままに、夏季休暇調査シーズンに入ってしまった。こうした経緯もあり、従来は共通課題は二年間同一テーマで行つてくるが多かったが、今回の共通テーマについては三年間がかりでやってもよいのではないか、の意見も出されました。また、第一回研究会で概念規定をめぐる問題が出されたことと関連して、大会討論を調査報告でなく、理論検討を深化させるかたちで行う必要があるのではないかの意見も出されました。

前回の問題提起をうけ、今年度はある程度実態報告にもとづく理論的問題の提示を行い、三年目に理論を正面から論じるというやりかたも考えられます。また、従来の調査報告についての再検討も課題を展開させる手がかりではないかとも思われます。いずれにせよこれらの問題をさらに検討することが確認されました。なお、前年度大会の「報告要旨」に掲載された「共通課題・村落社会研究の方法」をめぐる討論のすすめ方について（小池・福武・中野）の文章もかえりみる必要があるように思われます。会員諸兄からの積極的な御提案をおまちします。（事務局）